

平成29年度第2回学校評議員会報告「提言等のまとめ」

1 期 日 平成30年2月20日（火）10:00～12:00

2月21日（水）10:00～12:00

※ 多くの学校評議員の意見を伺うため、2日にわたって時間を設定し、どちらかに出席していただいた。学校からの配付資料・説明内容は同一である。

2 場 所 本校 校長室

3 出席者

学校評議員	佐藤 亥 壺	(八幡平市立西根中学校長)
	佐々木 マリ子	(八幡平市男女共同参画サポーター)
	瀬川 学	(特別養護老人ホームむらさき苑施設長)
	堀 籠 富 男	(元八幡平市大更コミュニティセンター長)
	田 村 昌 則	(株式会社エッグデリカ代表取締役) *ご都合により欠席
学校側	太 田 優 子	(校長)
	伊 藤 浩 昭	(副校長)
	若 狭 久 雄	(事務長)

4 報告

(1) 説明 (校長)

2回目の学校評議員会となる今回は、この1年間の本校における教育活動の総括と、来年度に向けた提言をお願いしたい。

《 資料による説明 》

ア 平成29年度3学年の進路決定状況について

* 就職希望者は、若干名の未決定者がいる。内定者のほとんどが管内に就職する。進学希望者に関しても、ほとんどが進学先を決定している。国公立大学には、3名合格している。私立大学進学者の中には、スポーツ推薦で決定した者もいる。今後、さらに進路指導の充実を図りたい。

イ 平成29年度部活動・対外活動の成績について

* 各部とも、精力的に活動している。全国大会には、例年のようにスキー部、相撲部が出場し活躍している。今年度は、特筆すべきものとして、家庭クラブが、高校家庭クラブ連盟研究発表大会東北ブロック大会に4年連続県代表として出場して最優秀賞を受賞し、平成30年7月に行われる全国大会（東京）に東北代表として出場することが決定した。上位を目指して頑張っている。

ウ いわて未来創造人サポート事業について

* 紫薫枕の製作（54年目 200個近く製作して寄贈）・紫根染めによるハンカチ等の製作（卒業生や山田町の仮設住宅のご高齢の方たちへ寄贈）など特色ある活動をしている。

エ 復興交流事業について

* 継続的に次の3つの事業と紫薫祭における募金活動を行っているが、今後は、被災地の状況の変化もあり、実施内容の検討が必要である。

① 山田町での八幡平市の物産PR ② 山田高校との生徒会交流

③ 山田町仮設団地訪問

オ 学校評価アンケートについて

* 質問項目毎の評価については、前年度と比較して大きく変化したものはない。

ただ、その中で、「本校は相談しやすい雰囲気であるか」「授業が満足できるものであるか」については、継続して低いやや評価になっている。「授業」については、生徒側と教員側に評価のギャップがみられる。互見授業や各研修への参加など授業改善を進めているが、今後さらに改善を図っていきたい。

(2) 質疑応答 (学校評議員からの質問・意見と学校側の回答)

- 学校評議員A 教職員のコンプライアンスについて、どのような取り組みを行っているか。
- 校長から 研修会や職員会議等で県のコンプライアンスマニュアル等を活用したり、情報共有するなど、具体的に指示・徹底を行っているほか、日常的に職員間のコミュニケーションの促進や職員との面談や観察に留意している。今後、教職員の人権意識の向上も必要と考えている。
- 学校評議員B 現在、教職員の残業時間が話題となっているが、平館高校ではどのような状態か。また、来年度から学校にもタイムカードが導入されるという情報もあるが導入予定はあるのか。
- 校長から 残業している職員は、少なくない。業務の平準化と効率化をはかり、残業時間の減少に努めたい。タイムカードの配置は、各校に順次行われる予定と聞いている。
- 学校評議員A 生徒数減少に伴う部活動について、参加の形態を考えると課題が多いかと思うが、厳しい状況の中にあって生徒にとって最善の環境を探してほしい。
- 学校評議員B 生徒が大会に出場できないのは、不完全燃焼である。部の廃部は極力避ける方向で検討してほしい。
- 学校評議員C 中学校では、部の統廃合や複数の学校による合同チーム編成が行われている。
- 校長から 部の統廃合は高校でも深刻な課題であり、再編を進めているところは少なく、スムーズに事が運んでいない学校もある。大会参加を優先して、部員の多い部を残すという案、活動の選択肢の保障を優先して、大会に参加できなくてもいいから多くの部を残すという案、それぞれ一長一短がある。本校では、平成31年度入学生からは普通科募集が1学級減の予定であり、今後、校内で検討して進めていきたい。
- 学校評議員A 受験報告会は、下級生にとってよい刺激になっているようだが、様子はどのような状況か。
- 校長から 就職、進学に際して必要とされる学習や心構え、普段の生活態度や言葉遣い学費など、上級生の生の声の下級生にいい形で伝わっている。今後も継続して進めたいと考えている。
- 学校評議員B 学校評価アンケートについて、「そう思わない」という回答の数そのものは少ないが注視すべきである。
- 校長から 念頭に置いて、対応していきたい。
- 学校評議員A 「いじめ」について、子どもたちを取り巻く状況には注意が必要である。日々の見守りをお願いしたい。
- 学校評議員D アンケートは生徒の評価が重要と思う。
- 校長から 生徒には、学校評価アンケートの他にも、授業評価アンケートや生活行動アンケート等を実施するなど、生徒の思いを探る機会を設けている。
- 学校評議員C 学校評価で授業満足度の項目および部活動関連でのポイント上昇は、授業改善や職員の取り組みの成果と思われるがどのように考えているか。
- 校長から 授業の改善は、今年度互見授業の機会を設定したが、まだ十分とはいえない。中学校との連携をさらに深めながら取り組んでいきたい。部活動については、教職員に精力的に取り組んでもらっている。
- 学校評議員C 諸納金については、中学校では早期に対応していて、現在は未納についてはかなり改善されている。
- 学校評議員D 諸納金の滞納については、市の福祉担当者と連携して対応するのがよいかと思う。
- 校長から 現在も市関係機関と連携して対応しているが、さらに継続して進めていきたい。

(3) 提言・意見

学校評議員A 限られた時間、設備の下での教職員の取り組みに感謝している。今後とも教職員間の意思疎通を深めながら、より一層よい形になるよう教育活動を行ってほしい。

学校評議員B 最近、教職員の勤務時間について、過重勤務が取り上げられている。ぜひ、負担にならないように配慮をお願いしたい。

学校評議員C 生徒たちは「高校生活が楽しい」と言っており、様々なところで頑張っているのが喜ばしい。今後もよいところを伸ばして育ててほしい。

学校評議員D 平高の様子は、校報等により見聞きしているが、部活動をはじめ各方面での活躍には注目している。引き続き指導をお願いしたい。

(4) 校長から

お忙しい中でお越しいただき、貴重なご意見を頂戴できたことに感謝します。今後とも折に触れて本校へのご提言をお願いしたいと思います。

本日のご意見は教職員にも周知を図り、来年度の教育活動に生かして、より充実を図っていきたいと考えています。

本当にありがとうございました。